

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



令和2年度

森林・林業交流研究発表会

【技術普及課】

11月10日(火)・11日(水)の両日、オービックホール(大阪市中心区)において「令和2年度 森林・林業交流研究発表会」を開催しました。

今年度の発表会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止と経済再生の両立を図るべく、3密回避に配慮した会場スペースの確保、Webによる研究発表という新しいスタイルを取り入れました。また、同時にYouTubeによるライブ配信を行い、発表会当日に傍聴参加できない方も視聴できるようにしました。そうした中、近畿中国森林管理局の職員に加え、森林大学校や高校の生徒をはじめとする教育機関、自治体、研究機関、森林組合など、14機関・団体にご参加いただきました。



【発表の様子】

発表課題は、シカの被害対策や低コスト造林の取組、早生樹造林、木材有利販売の取組など地域の課題に密着した幅広い研究・取組について、全24課題が発表されました。

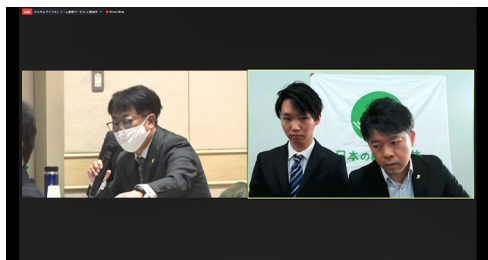


【ミスみどりの女神による司会】

当日は、「ミス日本みどりの女神」の井戸川百花^{いどがわ ももか}さんが司会を行い、発表課題毎に自らの体験談を踏まえたコメントが添えられました。このほか、特別講演では、「木材利用の可能性の追求」や「行政と民間が協同した取組」など、国産材利用の推進に向けた取組について講演いただきました。

8人の審査委員による審査の結果、近畿中国森林管理局長賞(3点)は島根県中山間地域研究センターと島根森林管理署の共同研究、森林技術・支援センター及び兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センターが受賞しました。このほか7つの課題がそれぞれ各賞を受賞しました。

今回発表いただいた内容については、皆様にご活用いただけるよう森林・林業交流研究発表集録としてとりまとめるとともに、配信映像とあわせて文末に記載の局ホームページに掲載します。

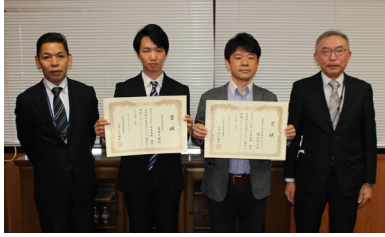


【YouTube 配信の様子】

【令和2年度 森林・林業交流研究発表会表彰一覧】

◎近畿中国森林管理局長賞（3点）

- ・スギ・ヒノキコンテナ苗の植栽後の活着率、初期成長と雪害抵抗性
～1年生苗と2年生苗の比較～
(島根県中山間地域研究センター 陶山大志、島根森林管理署 高田隼輔)



- ・3次元点群データを用いた森林管理
(森林技術・支援センター 坪倉 真)



- ・木材市場での高強度スギ丸太の選別販売に向けた取組について
～丸太強度の簡易な選別方法～
(兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター 小長井信宏)



◎(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所長賞(1点)

- ・国産キハダの栽培推進と優良な県産製品の拡大に向けた
奈良県研究分野統合本部の挑戦
～育苗と木材利用、どう育てるか、どう使うか～
奈良県森林技術センター 酒井温子、久保 健、成瀬達哉、
今治安弥、清川陽子)



◎(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター関西育種場長賞(1点)

- ・丹後地域の社叢林の特徴について
～巨樹から見える丹後の自然・歴史～
(京都府立宮津高等学校 宮下真之 西川銀之助 坂根知樹
松田健吾 和田庄世)



◎(一社)日本森林技術協会理事長賞(1点)

- ・防護柵の維持管理コストの削減について
～ドローンを活用したコスト削減効果の検証～
(滋賀森林管理署 山口真一)



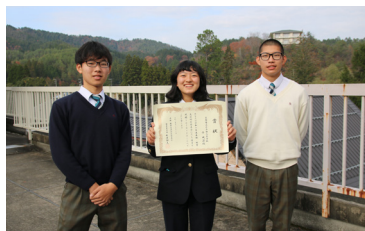
◎(一財)日本森林林業振興会会長賞(1点)

- ・ペカン増殖に向けた取組
～早生樹及び果樹としての可能性を探る～
(岡山県農林水産総合センター森林研究所 西山嘉寛、新原一海)



◎森林・林業交流研究発表会 審査委員長賞（4点）

- ・林福連携による世代を超えたつながりで創る木工製品
(京都府立北桑田高等学校 谷 風凜 神谷 遼 市原 旦)



- ・冬下刈り試験の実施について
～下刈りの省力化による作業環境の改善を目指して～
(和歌山森林管理署 河合敏宏 大島明里)



- ・ICTを活用した丸太材積の測定方法について
(鳥取森林管理署 都 賢太郎)



- ・里山広葉樹材需要拡大ワーキンググループの取組
～広葉樹利用を取り巻く現状と課題について～
(近畿中国森林管理局技術普及課 磯崎愛永)



□研究発表いただいた各機関・団体

- ・教育機関・・・京都府立北桑田高等学校、京都府立宮津高等学校、鳥取県立智頭農林高等学校、兵庫県立山崎高等学校、兵庫県立森林大学校
- ・県（研究所等含む）・・・石川県、奈良県、兵庫県、岡山県、島根県
- ・森林組合・・・大阪府森林組合
- ・企業・・・(株) 組合立森林研究所、カノウエフエイ（株）、
- ・(国研) 森林研究・整備機構 森林整備センター 松江水源林整備事務所

□特別講演いただいた各機関・団体

- ・住友林業株式会社 建築市場開発部 副部長 杉本 貴一（すぎもと きいち）様
- ・一般社団法人 木になる紙ネットワーク 事務局長理事 肥後 賢輔（ひご けんすけ）様
- ・物林株式会社 新事業推進部長 大貫 肇（おおぬき はじめ）様

発表内容やプログラムは下記アドレスをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>



明治の森箕面国立公園パトロールに参加しました。

【箕面森林ふれあい推進センター】

箕面森林ふれあい推進センター職員4名は秋晴れの10月14日(水)、大阪府北部農と緑の総合事務所みどり環境課が主催する「令和2年度秋季 明治の森箕面国立公園パトロール」に参加しました。

北部農と緑の総合事務所、大阪府池田土木事務所、箕面市、京都大阪森林管理事務所などから総勢12名北摂霊園(箕面市)に集合し、約5.6キロのハイキング道(自然探求路8号線、5号線、4号線)を倒木などがなければ点検しながら約4時間をかけて歩きました。

今年は台風の本土上陸もないことから倒木も非常に少な



【現在使用していない歩道への通行止を表示】

く、腰鋸の出番は少なかったですが、歩くのに支障となる小枝を切るため、剪定バサミが活躍しました。

途中、箕面ビジターセンターや展望台などでは、平日にもかかわらずいくつかのハイキンググループに出会った際には、挨拶を交わしながらパトロールの目的を北部農と緑の総合事務所の方が説明されていました。

途中、箕面川ダム(ロックフィル式)及びダム湖を一望できる展望箇所やあべのハルカス(大阪市天王寺区)までもが見える展望箇所などを経由し、さまざまな景色や秋の気配が感じられる森林の姿を見るこのことができた貴重な一日となりました。

主催の北部農と緑の総合事務所の御担当者に感謝申し上げるとともに、参加された皆様、お疲れ様でした。

なお、このパトロールは、春と秋に明治の森箕面国立公園のマナーアップのPRと施設点検を実施するため開催されており、これからも引き続き協力していきます。

「こどもちゃれんじ教室」に講師として参加しました！

【三重森林管理署】

三重森林管理署では、10月24日(土)、三重県伊賀市にある焼尾国有林の遊々の森「生き生き学びの森」で伊賀市教育委員会阿山公民館が公民館教室の一つとして年間を通じて開催している「こどもちゃれんじ教室」に職員が講師として参加しました。

当日は、少し肌寒い風が吹いてはいたものの、爽やかな晴天に恵まれ、参加者の親子15名が「生き生き学びの森」での森林散策と公民館での工作を体験しました。

森林散策では、最初、樹木の説明が書かれた看板の前で木の種類などを学んだ後、森林内を歩いて周辺に自生している木を観察しました。参加者は、実物を見ながら、その樹木の特徴や名前の由来などの説明を興味深そうに聞いていました。



【看板前で木の種類を説明】

また、散策中に、倒れている木をのこぎりで切る体験、どんぐりや松ぼっくり拾い、木の太さあてクイズなどで森林に親しんでもらいました。さらに、松くい虫の被害やシカによる獣害のことにも話が及び、森林被害の現状についても学んでもらうことができました。

その後公民館に移動し、松ぼっくりでクリスマスツリーの工作を行いました。今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、あらかじめ当署で用意した工作材料を一人一人に配布するという、材料が限定された中での工作でしたが、子どもたちは持ち前の発想力で色を塗ったり、木の実同士を組み合わせたりして、思い思いの自分だけのクリスマスツリーを作りました。



世界に一つだけの
クリスマスツリー！

【出来上がったクリスマスツリー】

山崎高等学校の生徒がインターンシップで就業体験をしました。

【兵庫森林管理署】

兵庫森林管理署では、10月26日(月)～30日(金)の5日間、兵庫県立山崎高等学校森林環境科学科2年生の生徒3名のインターンシップを受け入れました。

署と同じ宍粟市内にある山崎高等学校森林環境科学科では、「事業所における就業体験を通して、働くことの喜びと厳しさ、さらに、職業人としての心構えを学習させる」ことを目的として、インターンシップ事業を行っており、当署においても、協力することにしました。

5日間の就業体験は、林野庁、国有林の業務概要の説明及び安全教育を皮切りに、シカ防護柵の点検修理、治山事業(ドローンによる崩壊地確認・縦横断測量)、収穫調査(標準地



【署長による説明の様子】



【シカ防護柵の点検】

調査)、森林事務所の業務(境界管理、林野巡視及び山火事注意啓蒙活動)、製品生産事業(監督業務・作業道・検知)など、現場第一線の業務を体験しました。

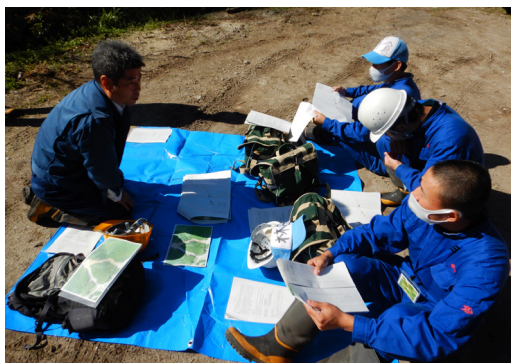
期間中は、慣れない作業ばかりで大変だったと思いますが、天候に恵まれた秋空の下で当署職員と一緒に作業を行い、国有林野事業に興味を持っていただいた就業体験となりました。



【測量業務の実習】



【境界巡検の実習】



【治山業務の講義】

鳥取県植樹祭に参加しました。

【鳥取森林管理署】

第65回鳥取県植樹祭が10月31日(土)、三朝町の「ふるさと健康むら」で、一般公募により決定した「カジカ鳴く清流育む 森林(もり)づくり」を緑化・植樹テーマとして、関係者ほか約400人が参加し、開催されました。

式典では、森づくりに貢献した「鳥取県美しいものづくり功労者」が表彰されたほか、みどりの少年団らによる森林の大切さや森林づくりのやりがいなど森林への思いの発表がありました。

また、みどりの少年団が育てた「ヤマボウシ」の苗木を主催者と来賓代表及び緑の少年団代表が植樹しました。



【みどりの少年団と主催者・来賓による植樹】

鳥取森林管理署からは署長が式典に参加し、一般参加者とともにイタヤカエデとヤマボウシの苗木を丁寧に植樹しました。

なお、三朝町にはラドン泉で有名な三朝温泉、国宝三徳山・投入堂及び名勝小鹿溪(中津国有林内)など多くの観光名所があり、三徳山・三朝温泉は「日本遺産」認定第1号のひとつとされています。



【主催者挨拶する鳥取県農林水産部長】



【みどりの少年団、主催者・来賓の記念撮影】

大山頂上避難小屋改築工事完成 記念式典に出席しました。

【鳥取森林管理署】



【看板設置】

鳥取森林管理署では、11月5日（木）、大山山頂で開かれた大山頂上避難小屋改築工事完成記念式典に出席しました。

国立公園満喫プロジェクトの取組の一環として鳥取県が主体となり、昨年度から大山頂上避難小屋の改築工事が進められてきましたが、令和2年10月に工事が完了しました。小屋の敷地は当署管理の国有林を借り受け

て利用されており、国有林も登山者等の安心・安全を確保する一役を担っています。

記念式典は、13：00から開催され、環境省、鳥取県、大山町、その他観光団体、工事関係者の方々が出席し、工事概要説明、避難小屋看板設置、避難小屋の内覧会等が行われました。



【主催者挨拶】

当日は、晴天でしたが気温は5℃であり、大山頂上からは米子市、弓ヶ浜半島等、見事な景色が一望でき、一般の登山者も多数見守る中で式典が行われました。



【新しくなった避難小屋内部の様子】



【避難小屋の全景】

幼稚園児へ国有林からおくりものをしました。

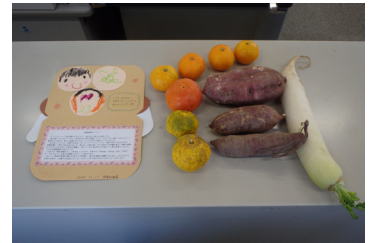
【山口森林管理事務所】

11月11日（水）、山口森林管理事務所の近郊にある明星幼稚園の年少児が収穫祭の行事で来訪し、園児達は幼稚園で収穫された野菜や感謝の手紙を所長に手渡しました。



【来所した園児達】

山口森林管理事務所からはお礼として、職員手作りのクリスマスリースとフジツルで編んだつるかご、アベマキの※突板で作った木製ペーパークラフトをプレゼントしました。



【幼稚園からの野菜と手紙】

園児達は、森林の恵みをふんだんに使った木製品に大喜びでした。



【木製ペーパークラフトとつるかご】

山口森林管理事務所ではこれからも、このような機会を活かして森林・林業の普及や地域振興に貢献していきます。



【リースを園児達に手渡し】



【クリスマスリース】

用語解説

※突板

木材を薄くスライスして作製した板材。厚さ0.2mmと薄く、プリンター等で印刷が可能。今回は、里山広葉樹林活用・再生プロジェクトで伐採された木を材料に使用しました。

親子で巣づくりを支援しました。

【広島北部森林管理署】

我が国の木材需要量は、約 8,200 万 m³ (平成 30 年) で、そのうち国産材が占める割合は 36.6% (国産材自給率) となっ



【巣箱づくりの様子】

ています。国では、令和 7 年度には国産材自給率を現在の 36% から 50% にすることを目標にしており、次世代を担う子供たちに、森林の大切さのほかに、木材利用の重要性を理解してもらおうことが重要となっています。

広島北部森林管理署では、11 月 15 日 (日)、子供たちに木材利用の重要性を理解してもらうための取組として、国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所と共催で親子による巣箱づくりを行い、当署では、巣箱づくり材料を提供するとともに、当日スタッフとして職員 3 名が参加しました。

巣箱づくりの冒頭、署長から「生活の中で木材利用を進めることが大切。特に国産材利用を進めていくことが重要。巣箱づくりで木材に親しみを持ってもらいたい」と挨拶しました。巣箱づくりには、6 家族 (うち子供が 8 名) が参加し、講師の指導の下、スギ板を材料に巣箱づくりに挑みました。

国産材の良さを PR するための森林環境教育に、これからも引き続き取り組んでいきます。



【巣箱づくりの様子】



【巣箱づくりの様子】

花 草 木

【ナンキンハゼ】

ナンキンハゼ (南京櫨・南京黄櫨、学名: *Triadica sebifera*) は、トウダイグサ科ナンキンハゼ属の落葉高木です。以前はシラキ属 (英語版) に分類され、*Sapium sebiferum* の学名で呼ばれていた。種小名の *sebifera* は「脂肪のある」の意味。別名、トウハゼ、カンテラギともいいます。和名は、ハゼノキの代わりに蠟 (ろう) をとる材料として使われるようになった、中国原産の木の意味ということで、昔は実の皮から“ろうそく”用の「ろう」を採っていました。

樹高 15m ほどになります。

葉は三角状広卵形で先端は尾状であり、秋に赤、黄、緑の葉が混在し美しく紅葉します。成長が早く広い空間が必要で、家庭の庭木より街路樹、公園樹として多く見かけます。

花は雌雄同株で、6 月から 7 月ぐらゐまで開花しますが、葉と同じような色なので目立ちません。雄花は総状花序で、その葉腋に雌花をつけます。

果実は秋、少し三角のかかった球形の蒴果 (さくか) を黒熟させ、3 個の種子を出す。種皮は黒色であるが、その表面は脂肪に富んだ白色の蠟状物質で覆われる。蒴果が裂開しても、種子は果皮から自然に離脱することではなく、紅葉期から落葉後まで長く樹上に留まり、白い星を散らしたようで非常に目立つ。ムクドリなどの鳥類がこの種子を摂食し、蠟状物質を消化吸収して種子を排泄することで、種子分散が起こります。

根皮、果実は乾燥して、利尿剤、下剤、便秘薬になり、これを烏臼 (うきゅう) といいます。種子の油脂の烏臼油は、石鹼 (ろうそく) の原料や、薬用 (腫物、皮膚病) になります。

長崎県長崎市、京都府京田辺市の市の木になっています。

ナンキンハゼの花言葉は「真心」「心が通じる」です。



【秋に紅葉したナンキンハゼ】

お知らせ

森林のギャラリー(局庁舎1階)

【技術普及課】

○現在の展示は12月25日(金)までです。次の展示は来年の1月6日からになります。展示内容は下記の局ホームページで確認していただけます。



<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>

【三重森林管理署】

○大杉谷国有林からの手紙(48通目)を発行しています。



<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/oosugitegami.html>



【箕面森林ふれあいセンター】

○こだま通信113号を発行しています。



https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/booklet/kodamatushin.html

【広島北部森林管理署】

○かわら版「ひろほく通信」第20号を発行しました。



http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/hirosimahokubu/information/hirohoku_tusin/hirohoku_tusin.html

我が署のスタッフ 鳥取森林管理署

津山 稔(つやま みのる) (平成30年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は?】

総務グループの仕事のうち、管理業務を担当しています。管理業務では国有林への入林手続き、国有林の貸付使用、レクリエーションの森、分収育林、分収造林、官行造林、国有林野の売払い、所管換、登記手続き、国有財産の管理業務、その他様々な外部折衝など非常に多岐にわたる仕事に取り組んでいます。外部対応ではすべての要望に応えることはできませんので、できない場合はその理由も含めて上司と相談し、丁寧に対応することを心がけています。かなりしんどい仕事ですので、余裕がなくなることも多々ありますが、その分貴重な経験をさせてもらっています。

【職場の雰囲気は?】

賑やかな職場です。管理業務は難しい仕事が多いですが、上司や前任者と相談し、仕事に取り組んでいます。

【林野庁の魅力は?】

仕事の中で山に行けることだと思います。現在の業務では山に行くことはあまりなく、会議や打ち合わせでの出張が多いので、その魅力を実感することは少ないですが、いつかは現場に行く機会が多い業務に携わってみたいです。



【事務所で執務中】

森林官等紹介

高野森林事務所（和歌山森林管理署）

地域統括森林官 飯嶋 弘毅（いいじま ひろき）

高野森林事務所は、和歌山県北部の九度山町に所在し、和歌山市、岩出市、紀の川市、高野町、有田川町の3市2町に所在する3,504haの国有林と116haの官行造林地を管理しています。

管理する国有林の多くは、紀伊半島特有の急峻な地形をなしており、紀ノ川流域及び有田川流域の上流部にあつて重要な水源地帯であるとともに、景観や自然環境に優れていることから、その一部は高野龍神国定公園に指定されています。

和歌山市にある紀泉高原^{きせんこうげん}国有林は、大阪近郊のレクリエーションの森で自然休養林として気軽に登山、ハイキング、自然探勝などに利用されています。

高野町にある高野山^{こうやま}国有林は、金剛峯寺^{こんごうぶじ}山内を取り囲むように存在し、その一部は世界文化遺産「熊野三山と参詣道」のバッファゾーンであり、周辺には、世界文化遺産貢献の森を設定しているほか、コウヤマキ希少個体群保護林、高野山風景林、森林整備協定締結の社会貢献の森などがあり、木材生産機能、保健文化機能をもつなど多様な特徴のある林分が存在しています。

有田川町にある日光山^{にっこうざん}国有林、津俣^{つまた}国有林は、有田川の最奥地に位置し、1,000 m級の紀伊山地の脊梁部中核をなしています。

高野森林事務所では、これらの国有林の多面的機能が発揮されるよう森林の育成に努めるとともに、国民の皆様との協働により、地域に貢献できるよう取り組んで参ります。



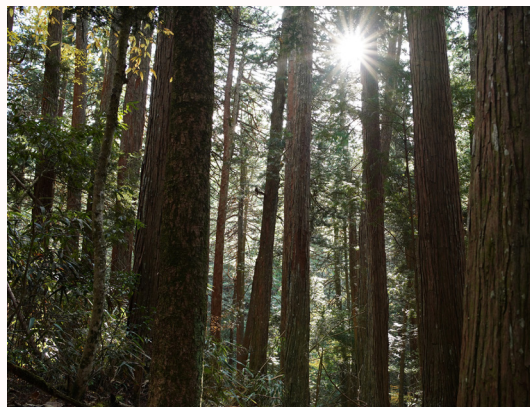
【作業道作設（高野山国有林）】



【搬出間伐（高野山国有林）】



【社会貢献の森・ボランティア活動（高野山国有林）】



【高野山コウヤマキ希少個体群保護林（高野山国有林）】

シリーズ『国有林 最前線!』

将来の林業を担う人材育成の取組

広島北部森林管理署

広島北部森林管理署では、令和元年度から将来の林業を担う人材育成に向けた取組として、庄原実業高等学校環境工学科の生徒を対象に森林環境教育（出前講座）を行っています。令和元年度には2年生の生徒を対象に、専門教科を補完する分野について、学期毎に3回行いました。

また、これまでの森林環境教育をより効果的に提供し、将来にわたって継続的な取組とするため、令和2年3月24日に庄原実業高等学校、広島県森林組合連合会、広島北部森林管理署の3者による「人材育成連携協定」を締結しました。国有林（森林管理署）と森林組合連合会が連携した人材育成の取組は全国初となります。

この協定により、これまであまり林業の現場や高性能林業機械に接する機会がなかったことを踏まえ、これまでの座学に加え、事業地見学を組み入れました。

10月14日、みょうげんやま明現山国有林内に3台の高性能林業機械を搬入し、造材・運材作業の実演による森林環境教育を行いました。実際に高性能林業機械による作業を見た生徒からは、「高性能林業機械の説明を聞き、更に林業や高性能林業機械に興味を持った」などの感想を聞くことができました。

今後も、この連携協定に基づいて3者が相互に連携して、より良い森林環境教育、現場実習の機会を生徒に提供していきます。



左から多田署長、八幡校長、小林組合長、福田広島県林業振興部長
【協定締結式】



【座学の様子】



【明現山国有林での現地実習】